

視点

イノベーションへの挑戦

さいたま商工会議所 会頭 松永 功



「去年今年貫く棒の如きもの」という俳人高浜虚子が詠んだ句があります。昨年11月にさいたま商工会議所会頭に就任以来あっという間に5カ月が過ぎましたが、就任当時の気持ちと現在の思いは全く変わらず緊張感が続いております。

さて日本経済は、大企業の一部に業績の回復が見られる一方で、国内産業の空洞化や雇用情勢の低迷に加え新興国需要の急増、中東情勢の緊迫が重なり、資源価格の高騰が止まらず中小企業の経営を逼迫しており、日本企業の成長持続は、先行き不透明感を増しております。

このような経済環境の中で商工会議所の果たす役割はますます重要になってきております。商工会議所では、「連」を今年のキーワードとしまして、行政をはじめ各種団体や関係機関と連携を図りながら、皆様のご意見、ご要望を真摯に受け止め、組織運営や事業運営に取り入れて参りたいと考えております。

私ども役職員一同は気持ちを新たにして「商工業者の声を集約し、社会に訴える、そして企業と社会を結ぶ」という商工会議所の生みの親であります渋沢栄一翁の精神を今一度肝に銘じ「地域に密着した魅力ある会員サービスの提供」「中小企業に対するきめ細やかな経営支援」「活力溢れる街づくりの推進と地域活性化の実現」に向けて全力で取り組

んで参る所存であります。着眼大局、着手小局の視点から課題を明確に整理して、優先順位を決めPDCAの管理手法を駆使してスピーディーに事業計画の具現化に努めて参りたいと考えております。

さいたま市は、今年5月に誕生10周年を迎えますが、これからの100年を見据えた中で市民が愛着を感じ、誇りを持てる計画的な都市づくりを推進していく必要があります。今後ますます地方分権が進み地域主権戦略の重要性が叫ばれている中で都市間競争に打ち勝っていかなければなりません。

私は、経済の発展は市勢の発展につながり、市勢の発展は、経済の発展につながるものと確信しております。さいたま市の人口は現在約123万人であり、市勢や経済の発展のためには流入人口の移動は、絶対的に欠くことのできない大きな要素であります。

さいたま市と商工会議所が車の両輪となり、さらなるさいたま市勢の発展に向け、強固な連携を築いて参りたいと思います。

一方私は、さいたま商工会議所会頭であると同時に埼玉県商工会議所連合会会頭も兼ねております。上田知事の掲げる自立自尊の埼玉を創るべく県内15の商工会議所が、情報を共有化し、連携を密にして行動する商工会議所を目ざし努力して参りますので、皆様の一層のご支援、ご指導をお願い申し上げます。